

| | | | | |
|--------------|-------------|-------------|----------|--|
| 環境・エネルギー工学専攻 | 第1志望 コース | 環境工学 コース | 受験 番号 | |
|--------------|-------------|-------------|----------|--|

平成 29 年度入学大学院前期課程
環境・エネルギー工学専攻
(環境工学コース)

小論文

入試問題

| 科目名 | 出題番号 |
|-----|-------------|
| 小論文 | 問 1 (必修) |

【注意】

- ・ 指示があるまで問題解答用紙に触れないでください。
- ・ 解答開始後、本紙および問題解答用紙に第1志望コースと受験番号を必ず記入してください。
また、問題解答用紙に汚損や破損がないか確認してください。
- ・ 試験終了後、本紙、問題解答用紙を回収します。
- ・ 体調不良で退室が必要な場合、トイレに行く必要がある場合、用紙の汚損、破損等があった場合、そのほか質問等がある場合は、挙手をして試験監督に知らせてください。

平成 28 年 8 月 23 日 (火)
10:00～11:30 実施

| | | |
|----------|-------------|----------|
| 小論文【問 1】 | 第1志望 コース | 受験 番号 |
|----------|-------------|----------|

(1) 以下の文章を読み、今後の資源・エネルギー、環境問題について、環境工学が学として、実行していくべき研究課題について、自分の考えを 600 字程度で記述しなさい。

目下のところ、先進国の都市部の人々のような豊かで快適な生活を営むためには、大量の資源・エネルギーを消費し、大量の廃棄物を排出することは避けられない。また、どの先進国も経済発展の途上においては、過去に深刻な環境問題に悩まされた。今後、世界中の発展途上国が経済発展を遂げ、先進国の都市部と同じような生活を指向するようになれば、資源・エネルギーの消費量と廃棄物の排出量は今より桁違いに大きくなり、地球全体の環境問題がより深刻になる可能性が高いと考えられる。一方、だからといって、発展途上国の経済発展を遅らせようとするのは、先進国のエゴイズムだと誹られよう。また、逆に先進国の人々が発展途上国の人々のような生活に戻るということも現実的とは言い難い。一体どうしたら良いのだろうか。

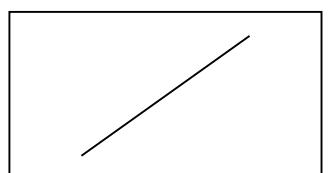
(2) 前問（1）で記した研究課題について、その研究目的、研究手法（または手順）、期待される研究成果、研究成果の活用方法などを含めた研究計画を600字程度で簡潔に記述しなさい。

以下に記入すること

(1)

- 以下に記入すること

【裏面につづく】



- 以下に記入すること

(2)

- 以下に記入すること

A 10x10 grid of empty cells, used for tracking progress in a task. The grid is composed of 100 individual squares arranged in 10 rows and 10 columns.